

犬井 正先生 略歴



1947年 東京都北区滝野川で生まれる。

学歴

- 1966年3月 東京都立北園高校卒
- 1971年3月 東京学芸大学教育学部卒
- 1973年3月 東京学芸大学教育学研究科修士課程社会科教育学専攻地理学専修修了（教育学修士）
- 1980年4月 東京都教育委員会より教員研究生として東京学芸大学教育学部地理学教室に派遣（1981年3月まで）
- 1990年3月 理学博士（筑波大学）

職歴

- 1973年4月 東京都立清瀬高等学校教諭（社会科地理担当）（1986年3月まで）
- 1980年4月 NHK教育テレビ高等学校講座地理講師併任（1983年3月まで）
- 1986年4月 獨協大学教養部専任講師（1988年3月まで）
- 1988年4月 獨協大学教養部助教授（1991年3月まで）
- 1989年5月 教養部教務主任（1991年4月まで）
- 1991年4月 獨協大学教養部教授（1994年3月まで）
- 1992年9月 獨協大学長期海外研修員として英国レスター大学地理学科にて研修（Honorary Visiting Fellow, 名誉客員研究員）（1994年3月まで）
- 1994年4月 獨協大学経済学部教授・獨協大学大学院経済学研究科博士前期課程担当（2020年3月まで）
- 1996年4月 免許課程委員長併任（1998年3月まで）
- 1998年4月 獨協大学大学院経済学研究科博士後期課程担当（2020年3月まで）
- 2002年4月 獨協大学経済学部経済学科長（2004年3月まで）
- 2007年4月 獨協大学学生部長・兼敬和館長（2009年3月まで）、獨協大学環境共生研究所所長併任（2013年3月まで）、日本地理教育学会会長（2010年3月まで）
- 2010年4月 獨協大学経済学部長・獨協学園評議員（2012年3月まで）
- 2012年4月 獨協大学学長・獨協学園理事（2020年3月まで）

2020年3月 獨協大学定年退職

2020年4月 獨協大学名誉教授

国際交流関係

2007年3月4日～17日（財）ユネスコ・アジア文化センターの2006（平成18）年度ユネスコ青年交流信託基金事業・大学生交流事業による「獨協大学マレーシア環境問題調査派遣団」団長

表彰

2005年8月20日（財）日本教育研究連合会より教育研究賞表彰

資格

2010年10月21日 専門地域調査士（認定者、社団法人 日本地理学会）

社会的活動

- ・ 文部省社会教育審議会専門委員（1983年4月～1987年3月）
- ・ みどりの三富地域づくり懇話会委員（1999年11月～2001年11月）
- ・ 埼玉県農村水利審議会委員（2002年～2006年9月）
- ・ 三富地域農業振興協議会顧問（2003年～2010年）
- ・ くぬぎ山地区自然再生協議会会長（2004年11月～2006年3月）
- ・ くぬぎ山地区自然再生協議会学識委員（2006年4月～）
- ・ 飯能名栗エコツーリズム推進協議会会長（2005年10月～2008年7月）
- ・ 草加市ふるさとまちづくり協議会運営委員長（2005年4月～2007年3月）
- ・ 群馬県里地里山再生プロジェクト学識委員（2006年1月～3月）
- ・ 草加市地域省エネルギービジョン策定委員会委員長（2007年7月～2008年3月）
- ・ 埼玉県みどりの再生県会議委員（副座長）（2008年7月～2012年6月）
- ・ 飯能市エコツーリズム推進協議会会長（2008年7月～2010年7月）
- ・ 草加市地域省エネルギービジョン重点テーマに係る詳細ビジョン策定委員会委員長（2008年8月～2009年3月）
- ・ 若者と生きる力をともに育む交流ビジネスモデルの構築推進協議会（農林水産省関東農政局事業）アドバイザー（2009年2月）
- ・ 埼玉県東部地区温暖化防止協議会顧問（2009年6月～）
- ・ 深夜化スタイル・社会実験 in SOKA 実行委員会会長（2009年6月～）（埼玉県温暖化対策課・埼玉県草加市環境課）
- ・ 新たな森づくり調査検討委員会学識委員（2009年7月～2010年6月）（埼玉県都市整備部公園スタジアム課）
- ・ 埼玉県長瀨総合射撃場クレー射撃場のあり方検討委員会座長（2010年10月～2011年）（埼玉県環境部自然環境課）
- ・ 草加市環境審議会委員（2011年7月～2012年6月）（草加市環境部）
- ・ 彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業立地検討委員会 委員長（2011年7月～2014年）（埼玉県環境部資源循環推進課）
- ・ 草加市地球温暖化対策地方公共団体実行計画策定委員会 委員長（2011年9月～2013年6月）（草加市環境部）
- ・ 草加市市民栄誉賞審査委員会委員（2012年8月～）
- ・ 草加市文化賞選考委員会委員（2012年8月～）
- ・ 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会アドバイザー（2018年6月～）（三芳町・所沢市・川越市・ふじみ野市世界農業遺産推進協議会）

学会活動

- 日本地理学会会員
代議員（2008年4月～2010年3月）（2010年4月～2012年3月）
- 日本地理教育学会会員
会長（2007年4月～2010年3月）
顧問（2010年4月～）
監査（2003年4月～2006年3月）
会計委員長（2000年4月～2003年3月）
編集委員長（1995年4月～2000年3月）
- 日本学術会議地域研究委員会地理教育分科会、環境・防災教育小委員会委員（2009年11月～2010年10月）
- 経済地理学会会員、人文地理学会会員、東京地学協会会員、歴史地理学会会員、埼玉地理学会会員、地理空間学会会員、学芸地理学会会員

主要研究業績

学位論文

“A Geographical Study on the Use of the Plain Forests in the Kanto Plain”

理学博士（筑波大学、博乙第596号）1990年3月23日

著書

（単著）

- 1) 『関東平野の平地林』古今書院、1992年4月28日
- 2) 『人と緑の文化誌』三芳町教育委員会、1993年2月28日
- 3) 『都市近郊のむら』小峰書店、1997年4月10日
- 4) 『里山と人の履歴』新思索社、2002年5月30日
- 5) 『エコツーリズム ころ躍る里山の旅—飯能エコツアーに学ぶ』丸善出版、2017年4月2日

（編著）

- 6) 『日本の川を調べる 全6巻』理論社、1996年3月
『第1巻 川から何を学ぶか』 『第2巻 北海道・東北の川とくらし』
『第3巻 関東・北陸の川とくらし』 『第4巻 東海・近畿の川とくらし』
『第5巻 中国・四国の川とくらし』 『第6巻 九州・沖縄の川とくらし』
- 7) 『日本の農山村を識る—市川健夫と現代の地理学』古今書院、2020年2月16日

（共著）

- 8) 『自然環境と文化』大明堂、2001年4月（山本正三・内山幸久・田林 明・菊地俊夫・山本 充と共著）
- 9) 『改訂版 自然環境と文化』原書房、2004年4月（山本正三・内山幸久・田林 明・菊地俊夫・山本 充と共著）

（共編著）

- 10) 『現代の世界像』古今書院、1985年4月17日（斎藤 毅・犬井 正 共編著）
- 11) 『森を知り森に学ぶ—森と親しむために—』（めぐろシティカレッジ叢書6）二宮書店、2006年10月10日（菊地俊夫・犬井 正 共編著）
- 12) 『地理教育講座 全4巻』古今書院、2009年1月19日（中村和郎、高橋伸夫、谷内 達、犬井 正 共編著）
『第1巻 地理教育の目的と役割』 『第2巻 地理教育の方法』
『第3巻 地理教育と地図・地誌』 『第4巻 地理教育と系統地理』

（分担執筆）

- 13) 『小金井市誌IV—年表編』小金井市、1976年（産業の項目担当）
- 14) 『小金井市誌V—地名編』小金井市、1979年（梶野町、関野町、桜町の地名担当）
- 15) 『東久留米市史』東久留米市、1979年
「東京大都市圏における東久留米市の発展」pp.757-771、「東久留米市の農業」pp.833-873
- 16) 「青梅林業」河川管理環境財団編『多摩川誌』1986年4月、pp.1271-1297
- 17) 『関東地方一都六県の市・区・町・村誌史類における誌と史に関する若干の考察—中国方志との関連を視

- 点として」齊藤 博・来 新夏編『日中地方史誌の比較研究』学文社、1995年6月、pp.165-185
- 18)「現代日本のアグロトレードを読む」高橋伸夫・谷内 達・安部和俊・佐藤哲夫編『ジオグラフィー入門』古今書院、1996年7月、pp.96-99
- 19) 本編 [下]「林業」新多摩川誌編集委員会編『新多摩川誌』河川環境管理財団、2001年4月、pp.1225-1242
- 20)「再考 日本の里山」『文藝春秋 臨時増刊号一和の心、日本の美』文藝春秋社、2004年9月、pp.206-207
- 21) 山本正三他編著『日本の地誌Ⅱ 人文社会編』朝倉書店、2006年8月
「日本農業における生産性の変化」pp.195-200、「農業の多面的機能と持続的発展」pp.230-233
- 22)「農林水産物を外国に依存する日本」高橋伸夫・谷内 達・安部和俊・佐藤哲夫・杉谷 隆編『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院、2008年8月、pp.80-83
- 23) 山本正三他編著『日本の地誌Ⅴ 首都圏Ⅰ』朝倉書店、2009年4月「(埼玉県3) 西部地域」pp.445-463
- 24)「グローバル化下の日本農業・農村の持続的発展」星野昭吉編著『グローバル社会における政治・法・経済・地域・環境』亜細亜大学購買部ブックセンター、2011年3月、第18章、pp.335-344 (大竹伸郎と共著)
- 25)「関東の平地林―農の風景―」田村善次郎・宮本千春監修『宮本常一とあるいた昭和の日本 13 関東甲信越③』農村文化協会、2011年12月、pp.190-219
- 26)「高校地理教育における地球環境問題とESD」山口幸男編『地理教育・社会科教育の理論と実践』古今書院、2012年3月、pp.159-168 (北崎幸之助と共著)
- 27)「地域研究をベースとした経済地理学研究」藤田佳久・阿部和俊編『日本の経済地理学50年』古今書院、2014年3月、pp.80-90
- 28)「世界農業遺産認定による三富地域の農業振興」星野昭吉編著『グローバル化時代における政治・法・経済・環境・言語文化』テイハン、2015年2月、第11章、pp.164-177
- 29)「熱帯林の破壊」浜本光昭監修・獨協大学環境共生研究所編『環境学への誘い』創成社、2016年4月、第2章、pp.30-41
- 30)「ユネスコエコパークをツールとした秩父・奥武蔵の環境共生」星野昭吉編著『グローバル化のダイナミクスにおける政治・法・経済・地域・文化・技術・環境』テイハン、2018年3月、第20章、pp.317-340

訳書

- 1) (単訳) C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』農林統計協会、1994年12月
- 2) (監訳) B・ミッチェル著『イギリス歴史統計』原書房、1995年12月
- 3) (共訳) D・グリッグ著『西洋農業の変貌』農林統計協会、1997年6月
- 4) (共訳) D・グリッグ著『農業地理学』農林統計協会、1998年10月

論説

- 1)「防府市・宇部市・山口市の工業化についての若干の考察」『学芸地理』26号、1971年3月、pp.11-33 (浅田 学・戸島 武と共著)
- 2)「山村における組共有地の変遷」徳川林政史研究所『昭和46年度紀要』1972年3月、pp.156-189 (松村安一と共著)
- 3)「東京都秋川流域における共有林野とその構造」徳川林政史研究所『昭和47年度紀要』1973年3月、pp.96-135 (松村安一と共著)
- 4)「明治時代東久留米市域各村地引絵図について I ―神山村・門前村―」東久留米市史編纂委員会『東久留米市史史料』第1号、1975年

- 5) 「明治時代東久留米市域各村地引絵図についてⅡ—小山村・南沢村・落合村—」東久留米市史編纂委員会『東久留米市史史料』第2号、1975年
- 6) 「明治時代東久留米市域各村地引絵図についてⅢ—下里村・前沢村・柳窪村・柳窪新田—」東久留米市史編纂委員会『東久留米市史史料』第3号、1976年
- 7) 「秩父山地における近郊山村の農林業の変化」『新地理』27巻1号、1979年、pp.13-23
- 8) 「武蔵野台地北部における平地林の利用形態」『地理学評論』55巻8号、1982年8月、pp.549-565
- 9) 「地域学習への地籍図利用の試み」『地理』28巻7号、1983年、pp.46-53
- 10) 「都市農業地域における露地野菜栽培の存在形態」『新地理』33巻2号、1985年、pp.11-27
- 11) 「スイス・グラウヴィンデン州フリン村における草地農業」山村研究会編『アルプス山地の土地資源利用』1986年、pp.30-43 (田中彰吾と共著)
- 12) 「多摩地区の農業」東京自治研究センター編『多摩白書—東京都多摩地区の社会経済構造と地域政策—』1987年、pp.179-198
- 13) 「那須野原台地西原における平地林利用の変容」『人文地理』40巻2号、1988年、pp.164-179
- 14) 「埼玉県川越市福原・名細地区の平地林利用の変容—市街化調整地域における平地林利用の事例」『経済地理学年報』34巻2号、1988年、pp.29-40
- 15) 「武蔵野の平地林をめぐる人と農」多摩文化資料室『多摩のあゆみ』53号、1988年、pp.26-36
- 16) 「三澤勝衛作成の地理定期考査問題の分析—近代日本における地理教育実践の一断面—」文部省科学研究費研究成果報告書(研究代表者西沢利栄)『近代日本における地理教育の変遷』1988年、pp.47-57
- 17) 「関東の平地林—農の風景—」日本観光文化研究所『あるく・みる・きく』263号、1988年、pp.4-29
- 18) 「草加市におけるクワイの生産形態に関する予察的考察」獨協大学教養部編『生涯学習における問題点—草加学に向けての共同研究—』1990年、pp.159-169
- 19) 「平地林をめぐる人と農」市川健夫編著『日本の風土と文化』古今書院、1991年3月、pp.260-277
- 20) 「関東平野周辺部における平地林の利用形態—那須野原台地西原の場合—」山本正三編著『首都圏の空間構造』二宮書店、1991年3月、pp.371-379
- 21) 「森へのいざない—親林活動をサポートする巡検の立案と実践；小中学生を対象とした森林と林業の学習のために—」『林業技術』604号、1992年、pp.32-35
- 22) 「トンガ王国の農業の変容」『獨協大学教養諸学研究』26巻2号、1992年、pp.23-65
- 23) 「関東地方一都六県の市・区・町・村誌史類における誌と史に関する若干の考察—中国方志との関連を視点として—」『獨協経済』60号、1994年、pp.39-59
 ＊齊藤 博・来 新夏編『日中地方史誌の比較研究』学文社、1995年6月、pp.165-185に再録
 ＊来 新夏・齊藤 博編『中日地方史志比較研究』中国南開大学出版社、1996年4月、pp.299-335に中国語で再録
- 24) "Agricultural land use in the European Union: Past, Present and Future", *Geographical Review of Japan*, vol.68 (Ser. B), No.2, pp.137-150, 1995年12月 (Ian Bowlerと共著)
- 25) 「世界の森林資源と日本の役割」『農林統計調査』45巻7号、1995年7月、pp.24-29
- 26) "Traditional Use of Woodlands in the Kanto Plain and Their Environmental Implications". *Geographical Perspectives on Sustainable Rural Systems*, Proceedings of the Tsukuba. International Conference on the Sustainability of Rural Systems, 1996年, pp.122-129
- 27) 「関東平野の平地林の歴史と利用」『森林科学』18号、1996年10月、pp.15-20
- 28) 「ベトナム南部カンザー地区のマングローブ林とその利用」『地理月報』438号、1997年6月、pp.1-3
- 29) 「日本における農業生産性の地域的変動—1980~1990年—」『獨協経済』68号、1998年3月、pp.1-53 (山本正三・山本 充・秋本弘章と共著)
- 30) 「森林整備の新たな展開と林業・山村の振興」農林水産省『AFF』29巻7号、1998年7月、pp.12-15

- 31)「地図で見る平地林」地図情報センター『地図情報』18巻3号、1998年、pp.8-11
- 32)「エクアドルにおけるタグアの利用」『獨協経済』70号、1999年6月、pp.75-87
- 33)「埼玉から平地林・里山保全のメッセージを」『埼玉自治』埼玉県自治研究会、587号、1999年7月、pp.24-27
- 34)「日本農業の変貌」日本統計協会『統計』51巻9号、2000年9月、pp.17-22
*日本統計協会編『20世紀の奇跡—統計で見た動乱の日本— 第2巻 産業経済の成長』日本統計協会、2003年8月、pp.39-48に再録
- 35)「平地林の農用林的利用の変化による減少」『地理月報』463号、2001年6月、pp.9-12
- 36)「里山保全の方途一点から面へ」『農林統計調査』55巻1号、2005年3月、pp.17-22
- 37)「日本における農業生産性の地域的変動—1990～2000年—」『獨協経済』80号、2005年3月、pp.1-23
(山本 充と共著)
- 38)「自然と共生する持続可能な地域づくり—くぬぎ山地区自然再生事業—」『獨協国際交流年報』(獨協大学国際交流センター紀要)19号、2006年12月、pp.37-42
- 39)「森林整備の展開と農山村の振興～埼玉県飯能市の着地型エコツーリズム～」日本森林技術協会『森林技術』800号、2008年11月、pp.18-24
- 40)「共通農業政策改革によるイギリスの農業的土地利用と農村環境政策の軌跡」『環境共生研究』(獨協大学環境共生研究所年報)2号、2009年3月、pp.1-12
- 41)「ブラジルにおける熱帯産大豆の拡大と自然的基盤」『環境共生研究』(獨協大学環境共生研究所年報)3号、2010年3月、pp.1-20(松本栄治・山本正三と共著)
- 42)「里山の保全と創出」『環境共生研究』(獨協大学環境共生研究所年報)4号、2011年3月、pp.1-11
- 43)「日本における農業生産性の地域的変動—2000～2005年—」『環境共生研究』(獨協大学環境共生研究所年報)5号、2012年3月、pp.1-23(大竹伸郎と共著)
- 44)「フィールドワークをベースにした経済地理学研究的の回顧」『環境共生研究』(獨協大学環境共生研究所年報)6号、2013年3月、pp.1-8
- 45)「三富新田の土地利用と林分管理」日本森林技術協会『森林技術』869号、2014年8月、pp.12-15
- 46)「サンマ考—サンマをめぐる漁と環境と食—」『環境共生研究』(獨協大学環境共生研究所年報)13号、2020年3月、pp.1-15

中等教育教科書・地図帳 (共著)

- 1)『中学 新しい社会科地図』東京書籍、(2東書—地図701)1990年文部省検定済
- 2)『中学新編 新しい社会科地図』東京書籍、(2東書—地図703)1997年文部省検定済
- 3)『高校生の地理A』二宮書店(130二宮—理A591)1997年文部省検定済
- 4)『高校生の地理B』二宮書店(130二宮—理B637)1998年文部省検定済
- 5)『基本地理A』二宮書店(130二宮—理A634)1998年文部省検定済
- 6)『高校生の新地理A』二宮書店(130二宮—地A005)2002年3月文部省検定済
- 7)『詳説新地理B』二宮書店(130二宮—地B004)2002年3月文部省検定済
- 8)『よくわかる地理A』二宮書店(130二宮—地A011)2006年3月文部科学省検定済
- 9)『詳説地理B』二宮書店(130二宮—地B008)2006年3月文部科学省検定済

辞典／事典類

- 1)『地図で知るヨーロッパ』平凡社、1996年6月
(アイルランドpp.36-37、イギリスpp.40-49、分担執筆)
- 2)『東京百科事典』東京学芸大学地理学会編、国土地理協会、1982年11月

(清瀬市pp.329-334、檜原村pp.438-443、分担執筆)

3) 『人文地理学辞典』朝倉書店、1997年10月

(アグロフォレストリー、平地林、里山、天蚕、防風林の項、分担執筆)

4) 『現代雑木林事典』全国雑木林会議編、百水社刊/星雲社発売、2001年9月

(落ち葉pp.30-33、新田開発と雑木林pp.128-131、グリーンツーリズムpp.76-77、分担執筆)

5) 『地理教育用語技能事典』日本地理教育学会編、帝国書院、2006年12月

(風土・風土論p.30、分担執筆)